



# 平成18年12月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年11月6日

上場会社名 **アース製薬株式会社**（コード番号：4985 東証第二部）

(URL <http://www.earth-chem.co.jp>)

代表者 代表取締役社長 氏名 大塚 達也

問合せ先責任者 役員待遇経営企画部部长 氏名 下川 善通 TEL：(03)5207-7456

## 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有  
 (内容) 1. 棚卸資産については実地棚卸を行わず、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎とする帳簿残高によって算定しております。  
 2. 法人税等の会計処理については、一部簡便な方法により税金費用を算定しております。  
 3. その他影響額が僅少な項目につき、一部簡便な方法を採用しております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

## 2. 平成18年12月期第3四半期財務・業績の概況（平成18年1月1日～平成18年9月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期)純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
18年12月期第3四半期	74,408 (1.7)	10,440 (4.7)	10,761 (5.8)	5,816 (5.6)
17年12月期第3四半期	73,153 (2.4)	9,974 (4.8)	10,174 (4.4)	5,508 (△8.6)
(参考) 17年12月期	82,556	4,876	4,946	2,282

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
18年12月期第3四半期	299 13	293 55
17年12月期第3四半期	320 28	— —
(参考) 17年12月期	131 00	127 63

(注) 1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

2. 平成17年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、当社株式が未上場であり市場価格が存在しなかったため記載しておりません。

### [経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期におけるわが国の経済は、原油価格の高止まり等の懸念材料はあるものの、企業収益の改善や設備投資の増加に加えて、雇用情勢や消費者の購買動向にも好転が見られ、景気は引き続き緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況の中、当社グループはワンランク上の快適な生活空間の実現を目指した独創的な高付加価値製品の販売、及び各企業に対応したオリジナルな衛生管理コンサルティングサービスの提供を行うなど、積極的な営業活動を展開してまいりました。また、製造原価の低減や販売管理費の削減等による経営の効率化に努め、収益力の向上を図ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期における売上高は744億8百万円(前年同期比1.7%増)、経常利益は107億61百万円(前年同期比5.8%増)、四半期純利益は58億16百万円(前年同期比5.6%増)となりました。

なお、当社グループは殺虫剤の売上構成比が高いため、売上高は主に4月～7月に多く計上されるという季節変動要因がある一方、人件費や諸経費は固定費として年間を通じてほぼ均等に発生するため、事業年度における四半期毎の売上高や利益には著しい相違があります。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

### 家庭用品事業

家庭用品事業では、付加価値のある独創的な製商品を発売するとともに、当社独自の提案型営業をより一層推進し、市場の活性化と売上の拡大に努めました。

主力の殺虫剤部門は天候との関連性が高く、4月～6月は低温・多雨・日照不足により低調でありましたが、7月以降は気温の上昇により好調に推移し、売上高は前年同期とほぼ横ばいの402億43百万円(前年同期比0.3%減)となりました。当部門では、加熱蒸散剤「アースレッドプロ」や設置型虫よけ剤「アース天然ハーブの虫よけゲル」等の新製品、及びハチアブ駆除用エアゾール「ハチアブ マグナムジェット」は当初の予想を上回る売上で推移しました。また、近年需要が拡大している電池式蚊取市場にデザインを一新した「アース電池でノーマット」を発売し、順調に売上を伸ばしました。一方で、ゴキブリ用殺虫剤においては前年発売の毒餌剤「ブラックキャップ」は好調だったものの、市場低迷の影響を受け全般的に伸び悩みました。

日用品部門は、新製品の発売により製商品のラインナップを拡充したことで、売上高は前年同期を上回り217億89百万円(前年同期比2.3%増)となりました。特に、口腔衛生用品が売上増に貢献し、新製品の知覚過敏用歯磨き剤「シュミテクト ステインリムーバル」が好調に推移したことに加え、洗口液においては新製品の「薬用モンダミン デンタルマニキュア」がけん引役となりモンダミンブランド全体の売上が増加しました。また、新有効成分ジフェチアロールを配合した新製品のネズミ用毒餌剤「デスマオプロ」も当初の予想を上回る売上で推移しました。一方で、入浴剤「バスロマン」は前年秋季から品質及び使用感の向上を目的としたリニューアルを行ったものの、十分に消費者の認知に至らなかったことなどにより前年同期を下回って推移しました。

以上の結果、その他製商品部門を含め、当事業における売上高は636億2百万円(前年同期比0.8%増)となりました。また、広告宣伝費や販売促進費等の販売諸経費の見直しを行うなど経営の効率化に努めた結果、営業利益は97億1百万円(前年同期比2.0%増)となりました。

### 総合環境衛生事業

総合環境衛生事業では、食品関連工場向けに各企業の体質に対応したオリジナルな品質保証システム(エスコ・ハシップ(ESCO-HACCP))及び医薬・化粧品工場に特化したサービスの提供を推進し、新規顧客の獲得に努めました。また、既存の顧客に対しては定期的に満足度調査を実施し、顧客満足度の向上を図るとともに取引の拡大を図りました。

以上の結果、当事業における売上高は108億5百万円(前年同期比7.2%増)となりました。また、販売管理費の効率化に努めた結果、営業利益は12億74百万円(前年同期比16.2%増)となりました。

### (2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
18年12月期第3四半期	73,795	40,768	51.2	1,906 72
17年12月期第3四半期	66,553	31,211	46.9	1,814 61
(参考) 17年12月期	57,825	32,304	55.9	1,664 99

### 【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年12月期第3四半期	4,458	△3,877	△359	17,515
17年12月期第3四半期	9,344	△825	△445	22,056
(参考) 17年12月期	3,369	△1,289	1,166	17,259

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は、前連結会計年度末と比べ、159億69百万円増加し737億95百万円となりました。これは、売上債権及び有価証券が増加したことなどによります。

少数株主持分を含めた純資産は、前連結会計年度末と比べ、57億80百万円増加し407億68百万円となりました。これは、新株予約権の行使により資本金が増加したこと、及び利益剰余金が増加したことなどによります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末より4.7ポイント減少の51.2%となりました。

(連結キャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は44億58百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が106億52百万円、仕入債務の増加が37億69百万円ありましたが、売上債権の増加が135億32百万円あったことなどによります。

投資活動の結果、使用した資金は38億77百万円となりました。これは、有価証券の取得による支出が13億16百万円、設備投資など有形固定資産の取得による支出が12億72百万円あったことなどによります。

財務活動の結果、使用した資金は、3億59百万円となりました。これは、新株予約権の行使による株式発行の収入が5億84百万円ありましたが、配当金の支払額が9億69百万円あったことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期末の残高は、前連結会計年度末に比べ2億55百万円増加し、175億15百万円となりました。

○添付資料

(要約) 四半期連結貸借対照表、(要約) 四半期連結損益計算書、(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書、セグメント情報

以上

[参考]

平成18年12月期の連結業績予想（平成18年1月1日～平成18年12月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	84,783	5,045	2,539

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 128円13銭

※ 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

[業績予想に関する定性的情報等]

当初の計画通りほぼ推移しており、平成18年2月15日発表の通期の業績予想に変更はありません。

# 1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成17年12月期 第3四半期末)		当四半期 (平成18年12月期 第3四半期末)		増 減 金 額	(参考) 平成17年12月期	
	金 額	構成比	金 額	構成比		金 額	構成比
(資産の部)							
I 流動資産	47,142	70.8	53,139	72.0	5,996	38,396	66.4
1. 現金及び預金	22,056		11,969		△10,086	13,501	
2. 受取手形及び売掛金	13,858		21,528		7,669	7,975	
3. 有価証券	320		7,507		7,186	4,036	
4. 棚卸資産	9,621		10,362		741	10,802	
5. その他	1,286		1,770		484	2,079	
II 固定資産	19,410	29.2	20,656	28.0	1,245	19,429	33.6
1. 有形固定資産	14,896		15,182		285	14,761	
2. 無形固定資産	511		669		158	487	
3. 投資その他の資産	4,002		4,804		801	4,180	
資産合計	66,553	100.0	73,795	100.0	7,242	57,825	100.0
(負債の部)							
I 流動負債	30,213	45.4	30,353	41.2	140	20,188	34.9
1. 支払手形及び買掛金	13,548		16,337		2,789	12,549	
2. 未払金	6,095		5,409		△685	4,825	
3. その他	10,570		8,607		△1,963	2,813	
II 固定負債	2,003	3.0	2,673	3.6	669	2,649	4.6
1. 退職給付引当金	1,543		1,779		235	1,935	
2. その他	460		894		433	714	
負債合計	32,217	48.4	33,027	44.8	809	22,838	39.5
(少数株主持分)							
少数株主持分	3,124	4.7	—	—	—	2,682	4.6
(資本の部)							
I 資本金	1,040	1.5	—	—	—	2,817	4.9
II 資本剰余金	250	0.4	—	—	—	2,608	4.5
III 利益剰余金	29,219	43.9	—	—	—	25,992	44.9
IV その他有価証券評価差額金	790	1.2	—	—	—	908	1.6
V 為替換算調整勘定	△88	△0.1	—	—	—	△20	△0.0
VI 自己株式	—	—	—	—	—	△1	△0.0
資本合計	31,211	46.9	—	—	—	32,304	55.9
負債、少数株主持分 及び資本合計	66,553	100.0	—	—	—	57,825	100.0

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成17年12月期 第3四半期末)		当四半期 (平成18年12月期 第3四半期末)		増 減 金 額	(参考) 平成17年12月期	
	金 額	構成比	金 額	構成比		金 額	構成比
(純資産の部)							
I 株主資本	—	—	36,824	49.9	—	—	—
1. 資本金	—	—	3,109		—	—	—
2. 資本剰余金	—	—	2,900		—	—	—
3. 利益剰余金	—	—	30,817		—	—	—
4. 自己株式	—	—	△3		—	—	—
II 評価・換算差額等	—	—	959	1.3	—	—	—
1. その他有価証券評価差額金	—	—	872		—	—	—
2. 為替換算調整勘定	—	—	86		—	—	—
III 少数株主持分	—	—	2,984	4.0	—	—	—
純資産合計	—	—	40,768	55.2	—	—	—
負債及び純資産合計	—	—	73,795	100.0	—	—	—

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成17年12月期 第3四半期)		当四半期 (平成18年12月期 第3四半期)		増 減 金 額	(参考) 平成17年12月期	
	金 額	百分比	金 額	百分比		金 額	百分比
I 売上高	73,153	100.0	74,408	100.0	1,254	82,556	100.0
II 売上原価	42,165	57.6	43,174	58.0	1,008	48,659	58.9
売上総利益	30,988	42.4	31,234	42.0	245	33,897	41.1
III 販売費及び一般管理費	21,013	28.8	20,793	28.0	△219	29,021	35.2
営業利益	9,974	13.6	10,440	14.0	465	4,876	5.9
IV 営業外収益	358	0.5	373	0.5	15	480	0.6
1. 受取利息	16		36		20	23	
2. 受取配当金	16		26		10	22	
3. ロイヤリティ収入	27		16		△10	37	
4. 受取家賃	125		123		△2	167	
5. その他	172		169		△3	229	
V 営業外費用	158	0.2	52	0.0	△106	410	0.5
1. 支払利息	15		3		△12	20	
2. 棚卸廃棄損失	99		9		△90	308	
3. 減価償却費	13		—		△13	18	
4. その他	29		39		9	62	
経常利益	10,174	13.9	10,761	14.5	587	4,946	6.0
VI 特別利益	88	0.1	5	0.0	△83	92	0.1
1. 固定資産売却益	22		5		△17	23	
2. 投資有価証券売却益	—		0		0	—	
3. 貸倒引当金戻入益	65		—		△65	68	
VII 特別損失	290	0.4	114	0.2	△175	583	0.7
1. 固定資産売却損	14		20		6	44	
2. 減損損失	—		89		89	—	
3. ゴルフ会員権評価損	0		—		△0	0	
4. 退職給付変更時差異償却額	275		—		△275	361	
5. 関連会社整理損	—		—		—	13	
6. 役員退職慰労引当金繰入額	—		—		—	160	
7. その他	—		4		4	3	
税金等調整前 四半期(当期)純利益	9,972	13.6	10,652	14.3	679	4,455	5.4
税金費用	4,082	5.6	4,461	6.0	379	1,848	2.2
少数株主利益	381	0.5	373	0.5	△7	324	0.4
四半期(当期)純利益	5,508	7.5	5,816	7.8	308	2,282	2.8

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 3. (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前年同四半期 (平成17年12月期 第3四半期)	当四半期 (平成18年12月期 第3四半期)	(参考) 平成17年12月期
区 分	金 額	金 額	金 額
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
1. 税金等調整前四半期(当期)純利益	9,972	10,652	4,455
2. 減価償却費	858	813	1,172
3. 売上債権の増加額	△6,097	△13,532	△202
4. 棚卸資産の増減額 (△は増加)	△59	462	△1,223
5. 仕入債務の増加額	1,891	3,769	880
6. その他	4,399	3,867	285
小計	10,965	6,032	5,367
7. 利息及び配当金の受取額	32	63	45
8. 利息の支払額	△15	△3	△20
9. 法人税等の支払額	△1,637	△1,634	△2,023
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,344	4,458	3,369
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
1. 有価証券の取得による支出	△591	△1,316	△157
2. 有価証券の売却による収入	725	331	520
3. 有形固定資産の取得による支出	△393	△1,272	△525
4. 有形固定資産の売却による収入	78	16	81
5. 投資有価証券の取得による支出	△181	△650	△385
6. 投資有価証券の売却による収入	—	5	4
7. 子会社株式の取得による支出	△114	—	△459
8. 貸付けによる支出	—	△0	△0
9. 貸付金の回収による収入	9	9	12
10. 定期預金の預入れによる支出	—	△600	—
11. 長期定期預金の預入れによる支出	△100	△100	△100
12. その他の投資活動による支出	△295	△319	△326
13. その他の投資活動による収入	36	19	45
投資活動によるキャッシュ・フロー	△825	△3,877	△1,289
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
1. 短期借入金の純増減額	2,500	—	—
2. 長期借入れによる収入	—	90	—
3. 長期借入金の返済による支出	△2,581	△4	△2,603
4. 株式の発行による収入	—	584	4,136
5. 自己株式の取得による支出	—	△2	△1
6. 配当金の支払額	△344	△969	△344
7. 少数株主に対する配当金の支払	△20	△57	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	△445	△359	1,166
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	55	33	86
<b>V 現金及び現金同等物の増減額</b>	8,130	255	3,333
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	13,926	17,259	13,926
<b>VII 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高</b>	22,056	17,515	17,259

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

#### 4. セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前年同四半期(平成17年12月期第3四半期)

	家庭用品事業 (百万円)	総合環境衛生 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	63,072	10,081	73,153	—	73,153
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	369	90	459	(459)	—
計	63,441	10,171	73,613	(459)	73,153
営業費用	53,934	9,104	63,038	140	63,179
営業利益	9,507	1,067	10,574	(600)	9,974

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な内容

- (1) 家庭用品事業 家庭用品(殺虫剤及び日用品(洗口液、義歯関連用品、歯磨き用品、入浴剤、芳香洗淨剤等))、防疫・農林畜産薬剤、海外向け殺虫剤原材料の製造販売及び仕入販売
- (2) 総合環境衛生事業 工場、病院等の衛生管理サービス

当四半期(平成18年12月期第3四半期)

	家庭用品事業 (百万円)	総合環境衛生 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	63,602	10,805	74,408	—	74,408
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	406	113	519	(519)	—
計	64,009	10,919	74,928	(519)	74,408
営業費用	54,307	9,644	63,952	15	63,968
営業利益	9,701	1,274	10,975	(535)	10,440

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な内容

- (1) 家庭用品事業 家庭用品(殺虫剤及び日用品(洗口液、義歯関連用品、歯磨き用品、入浴剤、芳香洗淨剤等))、防疫・農林畜産薬剤、海外向け殺虫剤原材料の製造販売及び仕入販売
- (2) 総合環境衛生事業 工場、病院等の衛生管理サービス

(参考)平成17年12月期

	家庭用品事業 (百万円)	総合環境衛生 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	69,132	13,424	82,556	—	82,556
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	504	153	658	(658)	—
計	69,637	13,577	83,215	(658)	82,556
営業費用	65,118	12,341	77,460	220	77,680
営業利益	4,518	1,236	5,754	(878)	4,876

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な内容

- (1) 家庭用品事業 家庭用品(殺虫剤及び日用品(洗口液、義歯関連用品、歯磨き用品、入浴剤、芳香洗剤等))、防疫・農林畜産薬剤、海外向け殺虫剤原材料の製造販売及び仕入販売
- (2) 総合環境衛生事業 工場、病院等の衛生管理サービス

#### [所在地別セグメント情報]

前年同四半期(平成17年12月期第3四半期)

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当四半期(平成18年12月期第3四半期)

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

(参考)平成17年12月期

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

#### [海外売上高]

前年同四半期(平成17年12月期第3四半期)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

当四半期(平成18年12月期第3四半期)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(参考)平成17年12月期

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。